

報 告

バリアフリー 2022 のブース展示報告

剣持 悟

川村義肢株式会社

1. はじめに

例年 4 月に開催されるバリアフリー展は COVID-19 の影響により延期され、6 月 8 日（水）から 10 日（金）にインテックス大阪で開催された。また、オンライン展も開催され、5/16～7/29 の期間で公開された。今回は関西支部の一員として、ブース展示を 2 日間お手伝いしたのでその様子を報告する。

2. 会場の様子

商業展示は 6 号館 B、セミナー・ワークショップは 4 号館で実施され、以前の賑わいや活気を取り戻しつつあるように感じた。参加人数は 3 日間の合計 24,327 人で、昨年の倍以上の人数となった。また、他館で開催されていた防犯防災展や建築材料・住宅設備総合展、関西ロボットワールドのいずれかの入場者登録をすれば、どの展示会場にも入場できたため、普段とは違う層の参加者も多かった。防災や建築、ロボットの分野はリハ工学とも関連が深く、様々な業界の方々に理解を深めてもらうにはいい機会であると感じた。

オンライン展でも当日のセミナーが一部閲覧出来、オンライン限定のセミナーも含めて、当日視聴できなくて後日ゆっくりとみることが出来て、とてもよい仕組みだと感じた。

3. 協会ブースの様子

展示は協会事業の紹介パネルと昨年の福祉機器コンテストの入賞作品の展示、カンファレンスや頸損解体新書 2020 の紹介などを行った。昨年の国際福祉

機器展では入賞作品の展示を行っておらず、今回が初めてとなった。表彰から時間が空いてしまったため展示物が借用できないものがあり、他の入賞作品も小さいものが多く、結果的に車いすでも見やすいゆとりのある配置となった。許可が得られた作品は紹介動画を見て頂くことでより深く理解していただくことができた。今後は募集の段階から公開を前提とした動画を提出してもらうことで、作品の魅力が伝わりやすくなると考えられる。来場者の中には、福祉機器を一生懸命に探す御家族も見受けられ、展示会が果たす役割を改めて考えさせられた。

オンラインセミナーでは協会主催で“障害者の運動習慣を考える”と題してディスカッションが行われた。肢体不自由者の年 1 回以上の運動実施者の割合は 3 割にも満たないというデータもあり、日常的に身体を動かすための工夫や取り組みについて紹介された。今後も是非継続してもらいたい。

4. その他のトピック

ワークショップ会場では神戸学院大学の古田氏によって、車椅子で振袖を着るためのリフトを使った着付けについてノウハウが披露された。これは京都きもの学院とのコラボにより実現したもので、着物を改造することなく、着付けと移乗と車いすの技術を融合させた素晴らしい取り組みだと感じた。ぜひ、多くの関係者に知っていただきたい。

また、自助具 SIG や関西支部のミライ・アッセンブリーなど 3D プリントに関連する取り組みも活発化しており、協会としての後押しも期待される。

川村義肢株式会社

〒 574-0064 大阪府大東市御領 1-12-1